



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年10月31日

上場会社名 株式会社 JEUGIA

上場取引所 東

コード番号 9826 URL <https://www.jeugia.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員営業本部長 (氏名) 西村 昌史

問合せ先責任者(役職名) 取締役兼執行役員経営管理部長 (氏名) 山根 篤

TEL 075-255-1566

四半期報告書提出予定日 2019年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	3,750	1.2	59	146.9	59	132.0	25	489.5
2019年3月期第2四半期	3,706	2.1	24	22.5	25	65.0	4	148.9

(注)包括利益 2020年3月期第2四半期 7百万円 (47.4%) 2019年3月期第2四半期 13百万円 (74.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	31.08	
2019年3月期第2四半期	5.27	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	4,979	2,202	44.2
2019年3月期	5,070	2,220	43.8

(参考)自己資本 2020年3月期第2四半期 2,202百万円 2019年3月期 2,220百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		30.00	30.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,380	0.0	80	21.0	77	15.6	30	36.2	36.48

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	827,250 株	2019年3月期	827,250 株
------------	-----------	----------	-----------

期末自己株式数

2020年3月期2Q	4,857 株	2019年3月期	4,836 株
------------	---------	----------	---------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期2Q	822,400 株	2019年3月期2Q	822,419 株
------------	-----------	------------	-----------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は国内経済の底堅さにより、景気は引き続き緩やかな回復基調となりました。個人消費にも消費税増税前の耐久財の駆け込み需要もあり、総じて堅調に推移致しました。しかしながら、米中の貿易摩擦や為替相場の動向により、国内外の経済状況は不確実性を増し、依然として先行き不透明な状況が続いています。10月以降の消費税増税等の要因により消費者の生活防衛意識の高まりが予想されることから、当社グループの経営におきましても環境変化への迅速な対応が必要となります。

このような状況下で当社グループは、教室事業への積極的な営業展開を進め、経営全般にわたる合理化、効率化を図り競争力、収益力の強化に注力してまいりました。

教室事業においては、音楽教室及びカルチャー教室の会員数拡大を経営の最重点課題と位置づけ、教室備品の入替えなど環境整備を積極的に行い、教室運営力の強化及び収益性の向上に努めてまいりました。教室の新設は無かったものの、8月に滋賀県彦根市で他社との提携教室を一部改装し、当社グループによる直営教室として営業を開始いたしました。

商品販売においては、市場は厳しい状況が続くものの、顧客参加型のイベント活動の拡充や商品の品揃え、きめ細やかな接客サービスの向上に注力してお客様の来店数と来店頻度の増加を図りました。ネット通販による売上拡大を推進することで店頭における対面販売の減少を補う一方、対面販売では、鍵盤商品を中心に適正価格を意識した値引き率の見直しで利益率の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高37億50百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益59百万円（同146.9%増）、経常利益59百万円（同132.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益25百万円（同489.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(音楽事業部門)

商品販売は、ピアノ等の高額商品が消費税増税前の駆け込み需要の影響で好調に推移したことや、電子オルガンも近年の減少傾向から増収に転換するなど、鍵盤商品は堅調に推移いたしました。管弦楽器は定期的に重点商品のフェアを行うことで増収となり、音楽ソフトは人気アイドルグループのCDが堅調に推移いたしました。ギター関連はネット通販による販売が増加し、店頭での販売減少を補ったことで僅かの減収にとどまりました。

音楽教室は、大人会員は増加したものの、子供会員が春の生徒募集で苦戦した影響で減少し、減収となりました。また、音楽普及を目的としたイベント収入も、参加人数や実施回数は増加したものの、前期に開催した創業120周年イベントの反動で減収となりました。

この結果、売上高は23億36百万円（前年同期比0.5%増）、セグメント利益は1億25百万円（同10.7%増）となりました。

(カルチャー事業部門)

新規の人気講座開発とWEBによる新規会員募集を強化してまいりました。また、教室内では接客向上を図り会員の退会を抑制するとともに、特定の教室に対して重点対策を行うことで、既存教室の会員数は増加いたしました。

東日本エリアの会員数は、前期8月末に閉鎖した関東地区の教室の影響を除けば、概ね堅調に推移いたしました。西日本エリアの会員数は、中国・四国地区と九州地区の一部教室を除き好調に推移し、特に京都・奈良地区は前期12月の新店効果もあり大幅に増加いたしました。

この結果、売上高は14億14百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は78百万円（同21.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は23億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ38百万円減少いたしました。これは主に商品が44百万円減少したことによるものであります。固定資産は26億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ51百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が36百万円、投資その他の資産が16百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、49億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ90百万円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は18億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ13百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が36百万円、1年内返済予定の長期借入金が33百万円それぞれ減少し、短期借入金が62百万円増加したことによるものであります。固定負債は8億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ58百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が58百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、27億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ72百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は22億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益が25百万円、剰余金の配当が24百万円となったことと、その他有価証券評価差額金が18百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は44.2%（前連結会計年度末は43.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「2020年3月期第2四半期の連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」に記載のとおり、2019年7月30日に公表した通期連結業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,019,623	1,023,952
受取手形及び売掛金	205,628	204,715
商品	723,084	679,053
その他	396,881	398,672
貸倒引当金	△640	△620
流動資産合計	2,344,578	2,305,774
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	742,486	705,160
土地	738,114	738,114
その他(純額)	52,584	53,031
有形固定資産合計	1,533,185	1,496,306
無形固定資産		
投資その他の資産	34,326	36,065
投資有価証券	340,987	314,458
差入保証金	626,298	626,649
その他	218,943	228,721
貸倒引当金	△28,120	△28,000
投資その他の資産合計	1,158,109	1,141,829
固定資産合計	2,725,621	2,674,201
資産合計	5,070,199	4,979,976
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	452,921	415,995
短期借入金	374,000	436,000
1年内返済予定の長期借入金	354,415	321,114
引当金	48,000	51,000
その他	681,693	673,227
流動負債合計	1,911,029	1,897,337
固定負債		
長期借入金	746,279	687,805
退職給付に係る負債	112,130	112,096
その他	80,509	80,117
固定負債合計	938,919	880,019
負債合計	2,849,948	2,777,356
純資産の部		
株主資本		
資本金	957,000	957,000
資本剰余金	985,352	985,352
利益剰余金	203,840	204,672
自己株式	△7,124	△7,150
株主資本合計	2,139,067	2,139,874
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	81,182	62,745
その他の包括利益累計額合計	81,182	62,745
純資産合計	2,220,250	2,202,619
負債純資産合計	5,070,199	4,979,976

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	3,706,273	3,750,784
売上原価	2,075,357	2,084,822
売上総利益	1,630,916	1,665,962
販売費及び一般管理費	1,606,726	1,606,246
営業利益	24,189	59,715
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,822	4,564
受取手数料	516	309
貸倒引当金戻入額	4,400	140
その他	1,540	1,406
営業外収益合計	9,279	6,421
営業外費用		
支払利息	7,864	6,822
その他	96	131
営業外費用合計	7,960	6,954
経常利益	25,507	59,182
特別利益		
固定資産売却益	1,446	479
特別利益合計	1,446	479
特別損失		
固定資産除却損	282	147
災害による損失	5,413	—
減損損失	—	4,259
特別損失合計	5,695	4,407
税金等調整前四半期純利益	21,258	55,254
法人税等	16,922	29,694
四半期純利益	4,335	25,559
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,335	25,559

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	4,335	25,559
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,213	△18,437
その他の包括利益合計	9,213	△18,437
四半期包括利益	13,549	7,122
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,549	7,122

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音楽事業	カルチャー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,324,141	1,382,132	3,706,273	—	3,706,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,675	—	1,675	△1,675	—
計	2,325,816	1,382,132	3,707,948	△1,675	3,706,273
セグメント利益	113,365	64,483	177,848	△153,659	24,189

(注) 1. セグメント利益の調整額△153,659千円は、全社費用等であり、主に各報告セグメントに帰属しない本社事務管理部门の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音楽事業	カルチャー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,336,755	1,414,029	3,750,784	—	3,750,784
セグメント間の内部売上高又は振替高	755	186	941	△941	—
計	2,337,510	1,414,215	3,751,725	△941	3,750,784
セグメント利益	125,501	78,126	203,627	△143,912	59,715

(注) 1. セグメント利益の調整額△143,912千円は、全社費用等であり、主に各報告セグメントに帰属しない本社事務管理部门の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。